

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	イノアック八名第2工場(2.3号棟)	階数	地上2階
建設地	愛知県新城市黒田字草場48-3、48-9 その他	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	250 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日	2019年11月18日
敷地面積	86,419 m <sup>2</sup>	作成者	木村幸広
建築面積	4,567 m <sup>2</sup>	確認日	2019年11月18日
延床面積	4,826 m <sup>2</sup>	確認者	須田敏明



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	77%
③上記+②以外の	77%
④上記+	77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境	温熱環境	光・視環境	空気質環境
N.A.	N.A.	N.A.	N.A.

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性	耐用性	対応性
N.A.	3.0	3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

生物環境	まちなみ	地域性
3.0	3.0	2.0

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

建物外皮の	自然エネ	設備システ	効率的
N.A.	3.0	5.0	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

水資源	非再生材料の	汚染物質
3.4	2.5	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	地域環境	周辺環境
3.9	2.5	3.0

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体		
		<b>Q 建築物の環境品質</b>													
<b>Q1 室内環境</b>														<b>2.9</b>	
<b>1 音環境</b>														<b>2.9</b>	
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音														-	
1 開口部遮音性能														-	
2 外壁遮音性能														-	
3 境界遮音性能(軽量衝撃源)														-	
4 境界遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														-	
<b>2 温熱環境</b>														<b>2.9</b>	
2.1 室温制御														3.0	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.0	
3 ゾーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														3.0	
<b>3 光・視環境</b>														<b>2.9</b>	
3.1 昼光利用														3.0	
1 昼光率														3.0	
2 方位別開口														3.0	
3 昼光利用設備														-	
3.2 グレア対策														5.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														3.0	
3.4 照明制御														-	
<b>4 空気質環境</b>														<b>2.9</b>	
4.1 発生源対策														3.0	
1 化学汚染物質														-	
4.2 換気														3.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														3.0	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														3.0	
1 CO <sub>2</sub> の監視														3.0	
2 喫煙の制御														3.0	
<b>Q2 サービス性能</b>														<b>3.2</b>	
<b>1 機能性</b>														<b>3.2</b>	
1.1 機能性・使いやすさ														-	
1 広さ・収納性														3.0	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
1.2 心理性・快適性														-	
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0	
2 リフレッシュスペース														3.0	
3 内装計画														3.0	
1.3 維持管理														-	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保														-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>														<b>3.0</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.5	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														0.4	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0	
1 躯体材料の耐用年数														0.3	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														0.1	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														3.0	

<b>3 対応性・更新性</b>			0.4	3.4	0.48	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.4	0.31	-	-	3.4
1	階高のゆとり		-	4.0	0.60	-	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	パソコンベア部 3.85 (66*2+23*2)(3号棟)+(73*2+48.2)(2号棟)/4588.15=0.09	3.0	5.0	0.40	-	3.0	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	-	0.57	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	-	3.3
<b>LR1 エネルギー</b>			-	-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.28	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI = 0.51	3.0	5.0	0.43	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.29	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価			-	3.0	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		省水型機器を用いている	0.6	3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.5	0.63	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.21	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	1.0	0.21	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	3.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

イノアック八名第2工場(2.3号棟)

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$  の総和

重点項目スコア=  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 イノアック八名第2工場(2.3)

計画上の配慮事項	
総合	設備システムの効率化を図り、将来的な変化にも対応できる長寿命な建築物を目指す。
Q1 室内環境	評価対象外となる。
Q2 サービス性能	将来的な可変性の向上を目指す。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内の緑化に努め、高木および中低木の配置にも配慮している。
LR1 エネルギー	設備システムの効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	特になし
LR3 敷地外環境	駐輪場・駐車場を十分な広さを確保している。
その他	評価外となっている休憩室部分についても、断熱材を設け環境の向上に努めている。